

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成21年度 第4回生物学グループ運営委員会
議 事 概 要

I. 日時 平成21年10月21日(水) 11:00~13:00

II. 場所 私立大学情報教育協会事務局

III. 出席者 伊藤、須田(ネット参加)、佐野 各委員 (事務局 井端、平田)

IV. 検討事項

生物学分野の教員(サイバーFD研究者)から寄せられた意見をもとに、前回作成した学士力案の見直しを行い、最終的に以下のとおりまとめた。

1. 学士力の見直し

- ① 項目ごとの表現のばらつきや全体のバランス、項目が多すぎるなどの指摘があったため、6つあった到達目標を整理して以下の通り3つに大きくまとめることにし、合わせてコアカリイメージ、到達度、測定方法もそれぞれ統合し、修正することにした。

到達目標

<生物学の知識>

1. 生命の基本単位の細胞の構造及び遺伝子や生体成分の機能などの知識を得ることから、個体の誕生から死までの生命活動を理解できる
2. 生物の共通性(普遍性)と多様性を理解できる
3. 生態系の機能と構造が理解できる

<実験科目>

4. 生物の観察や実験によって、実証に基づいた自然科学的で客観的な論理性を習得できる

<周辺科目・関連分野>

5. 生物や環境に関連する法令に配慮できる
6. 生物学の学習経験に基づいて、生命倫理、社会生活上の倫理、環境倫理に配慮できる

- ② 教員の意見で、従来の生物学の枠でなく地球規模、宇宙規模の生命観を若者に教育する視点が欠けているという指摘があった。これについては、内容が専門レベルであるので、化学の委員会のように教養と応用のレベルに分けてまとめるのも一つの方法ではないかとの意見が委員からあった。

さらに検討した結果、地球環境まで入れると生物学の範囲が広くなり、専門的な要素が強くなるため、上記<周辺科目・関連分野>の「環境」の範囲に留めることにした。

- ③ 到達目標1~3は知識なので、到達度は「知っている」「説明できる」という表現で大まかにまとめ、詳細内容は各教員・大学で検討してもらうことにした。

2. 修正後の学士力

以下の通り学士力を修正し、さらに各委員で確認の上、修正など気づいた点があった場合は、メールにて事務局まで連絡いただくことにした。

【到達目標 1】

生物の基本単位と生命活動の仕組みおよび細胞レベルから生態レベルまでの相互関係を含めた生物学の基礎知識を身につけている。

【コアカリキュラムのイメージ】

生物の基本構造、遺伝、代謝、細胞間・個体間のネットワーク、進化と生態など

【到達度】

- A：生物学の関連用語を知っている
- B：生物学の関連用語を他者に説明できる
- C：生物学の知識を体系的に説明できる

【測定方法】

- Aは、客観式の筆記試験で確認する
- Bは、記述式の筆記試験で確認する
- Cは、小論文、レポート、プレゼンテーションで確認する

【到達目標 2】

生物の観察や実験によって、実証に基づいた自然科学的で客観的な論理性を習得できる

【コアカリキュラムのイメージ】

基礎生物学の実験など

【到達度】

- A：与えられた材料と方法を使って実験ができる
- B：実験結果をまとめられる
- C：実験結果に基づいて背景や関連事項を考察できる

【測定方法】

- Aは、実験を行うことで確認する
- Bは、レポートで確認する
- Cは、レポートおよびプレゼンテーションで確認する

【到達目標 3】

生物学の視点から生物や環境に関連する問題について考えることができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

生物や環境に関連する取り決め（条約、法令）、生命倫理、哲学、宗教学、社会学など

【到達度】

- A：生物や環境に関連する人文・社会学分野の知識がある
- B：人文・社会学分野の知識を活用して、生物や環境について考えることができる
- C：生物や環境について、人文・社会学分野に関連付けて発展的に議論できる

【測定方法】

Aは、客観式の筆記試験で確認する

Bは、記述式の筆記試験で確認する

Cは、小論文、レポート、プレゼンテーションで確認する

3. 次回委員会

次回は、今回まとめた学士力をもとに、生物学の教育で必要な情報活用能力について検討することにし、開催日時はメールで調整の上、決定することにした。